

ザアカイの救い

ザアカイは立ち上がり、主に言った。「主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します。」

イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なので、すから。人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」 (ルカ 18:8~10)

□質問

2022年12月25日のクリスマス礼拝メッセージを聴きました。

ザアカイのお話で、「脅し取ったという事実は消えないため、イエス様の贖いが必要である」とのメッセージでした。この時点では、まだザアカイは救われていなかったのでしょうか。

■回答

ザアカイは、あの時点ですでに救われた信者です。

救いは人の行いによらず、神の恵みであり、信仰を通して受け取るものです。

この救いの原則は、旧約時代も新約時代も不変です。

ただし、何を信じて救われるのか、信仰の内容は時代によって変わります。

アダムやエバは、創世記3:15「女の子孫」のメシア預言を信じて救いを受けました。

アブラハムは、神の約束を信じて義と認められました。

メシアの公生涯の時期のユダヤ人たちは、イエスが神から遣わされたメシアであると信じることで救われました。

ザアカイは、メシアの公生涯の時期の信者です。イエスをメシアであると信じ、その信仰によって救われました。そして、その信仰を表したのが、脅し取ったものを償い、財産の一部を貧しい人々に施すということでした。償いや施しをすることで救われたわけではありません。

では、メッセージの中で、「ザアカイが脅し取ったという事実は消えず、イエス様による贖いが必要である」とお話したのは、どういう意味か、それは次のとおりです。

十字架の前までは、「神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです」(ロマ3:25)。ザアカイの罪は、信者になることで消えたわけではなく、神は忍

耐をもって見のがしておられたわけです。そして、罪の清算のためには、イエスの十字架でのみわざ、罪の贖いを必要としたのです。

信じる者を価なしに義と認めるといふ神の恵みは、「キリスト・イエスによる贖いを通して」（ロマ3:24）、とあるとおりです。

旧約時代の信者も神の恵みにより信仰を通して救われましたが、今の私たちとはちがって、十字架の贖いの前ですから、その救いは完全ではありませんでした。

旧約時代の信者が死ぬと、彼らの霊魂は、不信者と同様に、よみに下らねばならなかったのは、そのためです。もちろん、よみの中でも、不信者は「苦しみ場所」、信者は「アブラハムのふところ」と呼ばれるところと、別々のところに行くという大きな違いがありました。しかし、信者であっても、よみに下って捕虜のようになっていたのです。

イエス・キリストは、十字架の上で死んで、その霊魂はよみに下り、アブラハムのふところ、別名「パラダイス」に行ってくださいました。そこには、旧約時代の信者たちの霊魂がいました。

イエス・キリストは復活し、天に昇る時に、よみに捕らわれていた旧約時代の信者たちを引き連れ、天に連れて行ってくださいました（エペソ4:8）。

今は、よみの中の「アブラハムのふところ」という場所は、空っぽです。

パラダイスは、よみから天へと、その場所を移しました。

それ以降、新約時代の信者が死ぬと、その霊魂はよみに下らず、天のパラダイスに行きます。

いかがでしょうか。ザアカイが犯した罪、脅し取ったという罪は、イエス・キリストの十字架の贖いによって、清算されました。

□質問者の応答

良く分かりました。

今までは、ザアカイの救いとその喜びまで考えていました。

その後の「ザアカイが脅し取ったという事実は消えず、イエス様による贖いが必要である」までは深く考えていませんでした。

ロマ3:24~25を思いつきませんでした。

へブル人への手紙12:23「全うされた義人たちの霊」とは、旧約時代の信者たちの霊であり、イエス様の十字架による贖いによって全うされたということ、これとのつながりが良く分かりました。